

## 1. 会社概要（基本情報）

会社名	カディラキャピタルマネジメント株式会社	
所在地	住所	〒103-0026 東京都中央区日本橋兜町9-1兜町第2平和ビル603
	電話	050-3464-8162
	HPアドレス	<a href="https://cadiracm.com/jp">https://cadiracm.com/jp</a>
代表者	代表取締役社長 坂本 一太	
金融商品取引業登録番号	関東財務局長（金商）第3351号	
登録年月日	2022/11/2	
協会会員番号	012-03012	
業務開始年月	2024/1/31	
資本金	7千5百万円	
受付窓口	リスク & コンプライアンス部	
電話	050-3464-8162	
E-mail アドレス	<a href="mailto:team@cadiracm.com">team@cadiracm.com</a>	

## 2. 運用の特色（投資哲学、運用スタイル等）

カディラキャピタルマネジメントは、「サステナビリティのための投資が長期的に優れたリターンをもたらす」という投資哲学を掲げ、上場日本株サステナブル投資戦略を運用しています。私たちが考えるサステナビリティとは、地球環境や人間社会、投資先企業の活動、私たち自身の投資活動、のいずれにおいても持続性がある状態です。サステナビリティを重視することが投資リターンにつながるプロセスを、私たちは以下の様に理解しています。

1. 企業価値の向上：適切なサステナビリティ対応は、長期的に企業価値を向上させる力となる。
2. 投資機会：投資プロセスにサステナビリティの観点を組み込むことで、企業の発展に寄り添う、質の高い投資機会に参加することができる。
3. 投資家としての貢献：エンゲージメント活動において、投資家がサステナビリティを重視することは、企業の質的改善にポジティブな影響をもたらす。

私たちの運用スタイルの特色は、企業価値を推計し、それが市場価値を十分に上回る場合に投資を行う「伝統的なバリュート投資」の手法に「先進的なサステナビリティ対応」を組んでいる点にあります。企業価値を推計する際に、サステナビリティの要素を考慮することで、より精緻な価値計測を実現しています。私たちはこれを「インパクト統合価値（Impact Integrated Value, “IIV”）」と呼んでいます。具体的には、ステークホルダーにポジティブな影響を与える企業戦略を展開し、それを自らの持続可能な成長の原動力とすることができる企業を特定し、エンゲージメントによる企業価値向上の可能性を加味しています。自社開発のアルゴリズムを組んだツールを活用することで効率的かつ安定的な業務フローを実現し、投資先企業との対話といった、より付加価値の高い業務にリソースを集約しています。

### 3. 投資に関する意思決定プロセス

当社の基本的な投資方針である「運用方針」は投資運用部において策定され、取締役会において承認されることにより定められます。また、各受託資産の運用担当者は、当該運用方針に従い、当該受託資産に係る運用方針として「運用計画」を作成し、リスク&コンプライアンス部による確認を経たうえで、毎月取締役会の承認を受けます。投資運用部は、取締役会にて決議された運用方針や運用計画書に基づき投資一任契約に係る投資判断を行います。

基本的な投資プロセスとしては、全上場日本株に投資除外リストを適用した後、個別にファンダメンタルズを調査し、投資アイデアの独自性と確信度に基づいて1社1社積み上げる形でポートフォリオを構築しています。売却基準としては、株価が本源的価値を上回った場合、ファンダメンタルズが毀損した場合、そしてより魅力的な投資候補への入れ替え、の3つが挙げられます。

#### 4. 運用体制

投資運用部はチーフインベストメントオフィサー(CIO)、ファンドマネージャー、アナリストで構成されており、各メンバー独自の投資仮説構築とチームワークを重視したチーム体制をとっています。ファンドマネージャーは投資の意思決定を行うだけでなく、自らがアナリストとしての役割も担います。アナリストは投資仮説の構築、企業との関係構築と維持、そして調査分析を行います。投資運用に関する最終的な責任はCIOが負います。

主なメンバーの経歴は以下の通りです。

##### 清水裕

代表取締役CIO、投資運用部長、ファンドマネージャー

1998年に大和証券株式会社に入社後、2001年安田投資顧問株式会社（現明治安田アセットマネジメント株式会社）株式運用部アナリスト、2004年UFJパートナーズ投信株式会社（現三菱UFJ国際投信株式会社）株式調査部アナリストを経て、2005年スパークス・アセット・マネジメント投信株式会社（現スパークス・アセット・マネジメント株式会社）に入社。運用調査本部アナリストを経た後、2012年ファンドマネージャーに就任、日本株サステナブル投資戦略を立ち上げる。2023年7月より当社取締役CIO、ポートフォリオマネージャーに就任。認定マスター・コーチ、日本証券アナリスト協会検定会員、日本サステナブル投資フォーラム運営委員。

##### 松下敏之

代表取締役、ファンドマネージャー

第一勧業朝日投信投資顧問株式会社（現：アセットマネジメントOne株式会社）入社。ニッセイ・アセットマネジメント株式会社、スパークス・アセット・マネジメント株式会社にて国内資産トレーディング業務を7年経験。2006年、ブルーベア・インベストメント・マネージャーズ株式会社代表取締役副社長兼最高投資責任者（CIO）に就任し、海外籍日本株ファンドの運用と国内籍投資事業責任組合を運営。2010年よりKIMCO INTERNATIONAL PTE. LTD. にて、主に中小型株式及び日本株ロング&ショート・ファンドの運用調査業務を担当。2017年6月同社取締役に就任。2022年5月より当社表取締役投資運用部長、ポートフォリオマネージャーに就任。著書に「ファンダメンタル分析の手法と実例」。ビジネスブレークスルー大学「リーダーシップ・アクションプログラム」ラーニングアドバイザーを務める。

## 5. 運用金額

24億円（2024年4月30日時点。戦略運用開始日：2024年1月31日）

最大許容限度額：4,000億円

## 6. 運用実績

カディラキャピタルマネジメントは、2024年4月30日現在、上場日本株サステナブル投資戦略をアイルランド籍SFDR第9条UCITSファンドで投資一任受託運用しております。従って以下の運用実績は代表ファンド単独のものであることにご留意ください。

代表ファンド運用開始日：2024年1月31日

代表ファンド、2024年4月30日時点、日本円ベース、運用報酬等控除後、GIPS非準拠

設定来：8.23%

TOPIX 配当込み：9.62%

リスク指標については、運用期間が1年を超えた時点で開示予定です。

## 7. アピールポイント

カディラキャピタルマネジメントは、サステナブル投資への高い志を持つインベストメントプロフェッショナルが、投資を通じてより良い世界を築くことにコミットできる、ミッションドリブンな独立系の新興資産運用会社です。現在、上場日本株サステナブル投資戦略をアイルランド籍SFDR第9条UCITSファンドにて投資一任受託運用しております。

私たちは「インベストメントチェーンを先へとつなぐ」というミッションを掲げています。サステナブルな社会を構築するためには、幅広いステークホルダーに配慮することが必要です。そのためにはインベストメントチェーンを大きな視野で捉え、その先のステークホルダーに目を向けることが重要であると、私たちは考えます。例えば投資先企業の従業員、顧客、取引先、生態系などのステークホルダーに対して、企業活動がポジティブなインパクトを与えることができれば、事業基盤が強くなり、活動のインプットが充実します。すると、企業の価値創出力が強化され、結果としてインベストメントチェーン全体が豊かになっていきます。そうして生み出された価値をアセットオーナーの先のステークホルダー、つまり一人ひとりの受益者に届けることが、私たちが考えるインベストメントチェーンの役割です。このような好循環を生み出すため、私たちは長期的な視点で投資を行い、直接の対話を通じて投資先企業がステークホルダーとの関係を強化することを支援します。またインベストメントチェーンに関わる様々な立場の人々と協力することで、世の中のサステナビリティへの意識を高める活動を進め、インベストメントチェーンを先へとつなげていきます。

当社のファンドマネージャーは合計業界経験年数が45年以上となっております。清水は21年以上にわたるポートフォリオ・マネジメントと企業分析の経験を持っています。11年以上にわたる日本株式サステナブル投資戦略の運用では、欧州公的年金、UCITS、米国企業年金、米国大学基金、国内公募投信など幅広い投資家からの資金を受託し、先進的なサステナビリティ対応と高い投資リターンの両立を実現しました。松下は上場日本株投資運用業務に24年以上携わり、高いリサーチ能力と運用実績を持ちます。

カディラキャピタルマネジメントの運用は、ファンドマネージャーがそれぞれに培ってきた投資手法をベースにしている点で長い経験に裏打ちされています。その上で、市場環境の変化に対応し、来る時代を先取りするために、革新的なサステナビリティの手法を取り入れています。具体的に当社が取り組んでいることは、伝統的なバリュー投資手法にインパクト要素を組込んだ投資戦略の開発です。特に戦略の特徴が凝縮されている「インパクト統合価値（IIV）」は、投資判断を精緻に行うことに有効であることに加え、企業との対話においてもサステナビリティ対応を通じて企業価値を創造するという明確な目的を共有できるという優位性を生み出しています。

また、私たちのエンゲージメント活動は投資先企業との対話にとどまらず、インベストメントチェーンの様々なステークホルダーとの対話も含みます。グローバルには国連PRI、そして日本国内では金融庁やインパクト投資やインパクト評価に関わる業界団体（インパクト志向金融宣言、社会的インパクト・マネジメント・イニシアチブなど）、NPO/NGOなどとコミュニケーションをとっています。更に、目的意識を共有する投資家を集めて投資先企業との協働ミーティングを行うことで、企業に新たな情報やネットワーキングの機会を提供しています。また、カディラキャピタルマネジメントでは積極的な情報開示も必要不可欠な活動であると位置づけており、当社ホームページにてコンテンツを展開しております。

なお、2024年1月にFinCity.Tokyoが発表した15社のShowcased EMの1社に選ばれました。